

信州大学-Curtin University of Technology
大学間学術交流協定に基づく
平成 15 年度夏期海外単位認定プログラム実施報告書



信州大学



平成 15 年 12 月 1 日
信州大学医療技術短期大学部 / 信州大学医学部保健学科

【目次】

． 学術交流にあたって	．．．．．	2
． 学術交流の概要	．．．．．	3
． カ - ティン工科大学の概要	．．．．．	4
． 平成15年度夏期海外単位認定プログラム	．．．．．	5
1. はじめに		
2. 夏期海外単位認定プログラム		
3. 研修期間		
4. 研修場所		
5. 研修プログラムの内容	．．．．．	6
6. 参加人数	．．．．．	7
7. 指導教官		
8. 研修費用		
9. 研修日程	．．．．．	8
10. 研修プログラム一覧	．．．．．	9
11. プログラムに対する学生アンケート	．．．．．	14
12. 学生研修レポート	．．．．．	19
(編集後記)		



(表紙の写真は、研修1日目の Curtin 工科大学でのキャンパスツアー)

I. 学術交流にあたって

- パースの空と海に -

西オーストラリア州パースのカーティン工科大学への短期単位認定プログラムも今年で3回目を迎えた。今回は平成15年4月に新しく入学した保健学科一年生も加えた医療技術短期大学と医学部保健学科との合同プログラムである。3年前にスタートした時点で、この計画を四年制の保健学科につなげて発展させることを目指していたのであるから、それが現実になり、当初からかかわっていた者としてまことに喜ばしいことであった。今年は年頭から世界情勢が暗雲をはらみ、またSARS騒動が起こり、海外に学生を連れ出すことが危ぶまれたが、慎重に情勢判断した上で実行し無事終了できたのは幸이었다。

パースに着いた学生たちはどこまでも青く広い空と海、そして世話してくださるホームステイファミリーの温かい笑顔に迎えられた。翌日から3週間、広大で活気あふれたベントリーキャンパスで、英語を学び、講義を聴き、実習や見学に全力投球する彼らの姿があった。一日一日輝きを増してくる学生たちの顔。同じ看護や検査技術やPT、OTを学ぶオーストラリアの学生や世界中の留学生が集う海外の大学のキャンパスに身を置いて見ることのすばらしさは、彼らの真剣で積極的な姿勢がすべてを語ってくれる。短い期間ではあっても、この体験が学生たちの今後の勉学姿勢、国際的な医療人としての自覚に大きな力を与えたことは疑いない。

このプロジェクトのために昨年の12月から計画を始め、プログラムの作成、カーティンとの交渉、学生への説明や事前の指導、交通機関の確保等々多くの準備段階の仕事をなさり、さらに期間中も学生たちの勉学がスムーズにいくようカーティンのスタッフとぎりぎりまで打ち合わせをし、他方で学生たちの健康その他に気を配って無事に計画を終了してくださった保健学科のスタッフと後方支援していただいた事務官の方々の労を高く評価したい。また、このプロジェクトの意義を認めて学長裁量経費を配分していただいたこと、同じく基金を寄付していただいた同窓会の厚意に対して、これらの支援が無ければ計画を実行することはきわめて困難であったことを思い、特記して深い感謝の意を表したい。

2003. 2. 1

信州大学医療技術短期大学部長

信州大学医学部保健学科長

成沢 和子



(写真左から、大平、日高、Jaff Jago;
Biomed.担当、成沢、矢部の各教官)

II. 学術交流の概要

1. 学術交流協定及び学生の交流に関する覚書締結の経緯と交流実績

- 1) 1992年8月、イギリス、ロンドンで開催された第11回世界理学療法連盟学術集会に出席した信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授（現在；郡山健康科学専門学校/東都国際ビジネス専門学校 理事・学校長）と、カーティン工科大学健康科学部ジョン・コール教授との間で教育・研究に関する情報交換が始まった。
- 2) 1997年3月、信州大学医療技術短期大学部藤原孝之、楊箬隆哉教授およびゴウ・アー・チェン助手の3名が、カーティン工科大学副学長宛の本学学長親書を携え健康科学部の遠隔地教育システムに関する資料収集と共同研究課題の打ち合わせを目的として、カーティン工科大学を訪問した。カーティン工科大学学長、健康科学部長、看護学科、医学検査学科、理学療法学科、作業療法学科等のスタッフとの会談の折り、両大学間の、より積極的な学術交流が話題となり、教員、学生交流の早期実現に向け検討することで合意した。
- 3) 1998年7月-8月、信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授が文部省在外研究員派遣でカーティン工科大学健康科学部理学療法学科客員教授として滞在した折り、カーティン工科大学健康科学部スタッフミーティングに出席し、当該大学の多くの教官より大学間交流に関する質問を受け、同大学教員が信州大学との間の大学間学術交流に興味を示していることがわかった。
- 4) 1999年3月、本学藤原孝之、楊箬隆哉教授がオーストラリアに出張した際、副学長ジョン・ミルトン・スミス教授、健康科学部長チャールス・ワトソン教授、看護学科主任教授マイケル・ヘイゼルトン、理学療法学科主任教授ジョン・コール、国際教育課程担当パム・ロバーツ女史等と両大学間の学術交流推進を話題に会談した。両大学の資料を交換し検討した結果、単一学部間に留まらず、広い学際領域での学術交流を目指すことを目標にすることで合意した。その際、カーティン工科大学副学長から大学間協定に関する雛形文書を預かった。
- 5) 1999年4月、学術交流協定締結。
- 6) 1999年5月、横浜で開催された第13回世界理学療法連盟学術集会に特別講演演者として来日した、カーティン工科大学健康科学部ジョン・コール教授が信州大学を表敬訪問し、特別講義を行った。
- 7) 2000年8月、学術交流協定に基づく学生の交流に関する覚書締結。
- 8) 2001年8月、信州大学医療技術短期大学部学生31名がカーティン工科大学にて夏季留学・単位取得プログラムに参加。
- 9) 2002年は27名、2003年は24名が同様の夏季留学・単位取得プログラムに参加した。

2.2 交流協定の期限

現在の交流協定は2004年3月まで、学生の交流に関する覚書は2005年8月までそれぞれ5年間の期限である。

III. カ - ティン工科大学の概要

1. 設立

1) 1967年：The Western Australian Institute of Technology (WAIT)として創設。

2) 1987年：Curtin University of Technologyとなる。

* カーティン工科大学の名称は、オーストラリア首相を歴任したジョン・カーティン創設者に由来する。パースは日本でも古くから遠洋漁業の基地として知られている。広大なキャンパスを有機的に機能させるため、学内に国際教育担当部門を独立させ、情報ネットワークを整備し、国内外の教育研究機関と遠隔地教育・研究を推進している。1996年から、シンガポール、マレーシア、インドネシア、香港等の教育機関とインターネットを利用した学位取得課程を展開し、実績を上げている。大学院教育では、卓越した教育プログラムが評価され、アメリカ、カナダ、ヨーロッパの留学生も相当数在学している。

2. 位置

1) 西オーストラリア州唯一の工科大学（国立）

2) メインキャンパスはパース（Perth：西オーストラリア州の州都。人口約 120 万）の郊外ベントレー（Bentley）、中心部より 10 キロ南東へ位置（海岸まで車で 20 分）に立地し、他に 3 キャンパス（Kalgoorlie, Muresk, Miri）を有する。

Address : Selby Street , Shenton Park , Western Australia ,
6008 Australia
TEL : + 61-9351-3618
HP-address : <http://www.curtin.edu.au/>

3. 学部等

1) 学部（6 学部）経営学部（6 学科 10 施設）、健康科学部（8 学科 10 施設）、人文学部（5 学科 10 施設）、理工学部（12 学科 21 施設）、地質学部（2 学科 12 施設）、農学部（3 施設）

2) 大学院：経営学（1 専攻）健康科学（8 専攻）、人文科学（9 専攻）、理工学（14 専攻）、農学（1 専攻）、地質学（1 専攻）

* 学士、修士、博士課程：合計 365 コース

4. 学生数および教職員数

1) 学生数： 31,000 人（留学生数： 90 ヶ国、5,600 人）

2) 教員数： 1,100 人

3) 職員数： 1,200 人

IV. 平成15年度夏期海外単位認定プログラム

1. はじめに

信州大学-Curtin University of Technology 間学術交流協定にもとづき平成15年度夏期海外単位認定プログラムが平成15年8月16日から9月6日の約3週間にわたり、西オーストラリア・パースのCurtin University of Technology およびその関連施設・病院で実施された。本年のプログラムに24名の信州大学医療技術短期大学部および信州大学医学部保健学科学生が参加した。

2. 夏期海外単位認定プログラム

1) 目的： 異文化での学習・生活体験を通じて、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。

2) 本学における単位認定： 参加コースに応じて本学の単位として認定する。

【認定予定単位】

(1) 看護学科	: 特別講義
(2) 衛生技術学科	: 特論 B
(3) 理学療法学科	: 理学療法学特論
(4) 作業療法学科	: 基礎作業学特論
(5) 専攻科助産学特別専攻	: 原書抄読
(6) 保健学科	: 国際医療協力論

3. 研修期間

研修期間：平成15年8月16日(土)～9月6日(土) 22日間

4. 研修場所

1) 研修キャンパス； Curtin University of Technology (Kent St, AB61102y)W

2) 見学施設：

(1) Nursing

Royal Flying Doctors Service of Australia

Princess Margaret Children's Hospital

Royal Perth Rehabilitation Centre Shenton Park

Murdoch St John of God Hospital

Rowethorpe Hill View Tce Bentley

(2) Bi omed.

Royal Perth Hospital, Laboratory Medicine

Royal Perth Hospital, Department of Microbiology

Australian Red Cross Blood Service

Royal Flying Doctors Service of Australia

(3) PT

Fremantle Hospital

Rowethorpe Aged Care Facility

Independent Living Centre, SCGH

Paediatric Hospital, PMH

Royal Flying Doctors Service of Australia

(4) OT

Rowethorpe Aged Care Facility

Independent Living Centre, SCGH

Cerebral Palsy Association of Western Australia

Royal Flying Doctors Service of Australia

Paediatric Hospital, PMH

5. 研修プログラムの内容 (Curtin University of Technology)

1) 1st.week ; Orientation & English language class (DOLIE)

- ・ Curtin Univ. of Technology およびDOLIE のオリエンテーション。
- ・ 英語の聞き取り試験により2つのクラスに分別される。
- ・ DOLIE による英語および英会話の授業。
- ・ MRSA test を受ける (病院見学のため)

(* DOLIE : Department of Languages & Intercultural Education)

2) 2nd.week ; Lectures & Clinical Visits

- ・ Combined lectures (全員参加)

Community health care

Women's health

Geriatric Rehabilitation

Australian health care system

Infection control, point of care testing & good laboratory practice

3) 3rd.week ; Tutorial, Practice , Clinical visits & Graduation ceremony

- ・ Curtin 工科大学生のクラスで実習と討論および関連病院・施設の見学
- Lecture / Tutorial / Practice
- Clinical visits
- Graduation ceremony & speech

6. 参加人数

1) 看護学専攻	:	6名(1年生)
2) 看護学科	:	2名(2年生)
3) 衛生技術学科	:	3名(2年生)
4) 理学療法学専攻	:	1名(1年生)
5) 理学療法学科	:	8名(2年生)
6) 作業療法学科	:	2名(2年生)
7) <u>専攻科助産学特別専攻</u>	:	<u>2名(1年生)</u>
合計		24名(1年生9名、2年生15名)

7. 指導教官

成沢学科長(部長;1週間),カーティンプログラム担当教官(大平雅美 教授、Goh Ah Cheng 助教授、日高宏哉 助教授、畔上真子 助手),指導協力として藤原孝之(カーティン工科大学客員教授),その他自由参加2名の教官(楊箐隆哉教授、矢部正之教授:各々1週間)の協力により,学生の自主性を生かしながら現地指導が行われた。また、学術交流協定の再締結についての打ち合わせをおこなった。

8. 研修費用

『平成15年度カーティン工科大学での夏季留学・単位取得プログラム研修費用』

研修費用:学生一人 35万円

【内訳】

・往復航空運賃	143,300円
・特別プログラム授業料	135,800円
英語クラス,保健学共通講義,専門別(看護,検査技術,理学療法,作業療法)講義・実習,施設見学(含む移動費用,指導支援費用)	
・滞在費(3週間)	36,800円(ホームステイ、食事込)
・指導料・その他諸経費	34,000円
指導教官2名分の航空運賃,宿泊費を含む	
計	349,900円

- ・残りの指導教官3名分の航空運賃,宿泊費は学長裁量費および同窓会から計上された。
- ・若干の端数は次年度以後の予備費等とした。
- ・成田空港迄の交通費及び旅券取得費用は各自の負担である。

9. 研修日程

8月16日正午(12.00pm)に信州大学北門よりバスで出発し東京成田空港に6.30pm 到着した。QF70 便で8.55pm に出発した。

8月17日 am6.05am にパース空港に到着した。カーティン工科大学国際教育担当者のオリエンテーションが空港口ビーで行なわれた。その後8.00am までにホームステイ先の家族(ホストファミリー)の出迎えがあり、各々がホームステイ先に出発した。学生はホストファミリーから、ホームステイ先での生活の規則、通学経路の案内(ホームステイ先は大学から徒歩15分の所からバスを乗り継ぎ約1時間かかる所までいろいろある) 周辺の案内などのオリエンテーションを受けた。

8月18日 Curtin 工科大学にてミーティング、オリエンテーション、英語クラス分け試験、キャンパスツアー、パース市内バスツアーが行なわれた。

8月19日~8月22日(1.week) English language class : 1クラス12人(2クラス)で1コマ1時間から2時間の英語および英会話の授業を終日実施した。授業はコマごとに教師が交代して行なった。

8月25日~8月28日(2.week) Lectures & Clinical visits : 総合健康科学共通科目と特別科目(看護, 衛生技術, 理学, 作業) を行なった。

9月1日~9月4日(3.week) Tutorial & Practice : ワークショップ, チュートリアル, 実習, 臨床見学等、各分野別に行なった。

9月5日 12.30pm ; Farewell Lunch, Graduation Ceremony : 修了証書の授与式が行なわれ、学生ひとりずつが英語で挨拶をした。

9月5日~6日 7:30pm 学生はホストファミリーに送られてパース空港に集合し、10:45pm に QF79 便にてパースを出発、翌 am9:30am 東京成田空港に到着した。バスにて松本に帰信し、信州大学北門に4.30pm 到着した。



第1週、Curtin 工科大学教官による English language class

10. 研修プログラム一覧

First day program (August 17 to September 5 2003)

06.10 Arrive at Perth International Airport short homestay orientation talk
08.00 Meet homestay family and be transported to homestay., Free time

Week One (August 18 to August 22 2003)

B-number : Building number

Time	Monday August 18	Tuesday August 19	Wednesday August 20	Thursday August 21	Friday August 22
9.00-10.30	<ul style="list-style-type: none"> Meet in front of B- 208 room 129C Department of Languages Office Orientation: Curtin University Club B-104 English Language placement test. 	English language class Group one 211.226 Group two 408.1501	English language class Group one 301.112 Group two 211.226	English language class Group one 211.226 Group two 401.372	English language class Group one 408.1500 Group two 211.226
10.30-11.00	Morning Tea	Break	Break	Break	Break
11.00-12.00	Campus tour Lunch Break	English language class Group one 211.226 Group two 408.1501	English language class Group one 301.112 Group two 211.226	English language class Group one 211.226 Group two 401.372	English language class Group one 408.1500 Group two 211.226
12.00-13.00	Bus tour of Perth	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break
13.00-15.00		English language class Group one 201.306B Code CY2347 Group two 211.226	English language class Group one 211.226 Group two Curtin Club 104.meeting room	English language class Group one Curtin Club 104. BR2 Group two 211.226	Free time

Week Two (August 25 to August 29 2003)

Nursing and Midwifery (Week Two)

Time	Monday August 25	Tuesday August 26	Wednesday August 27	Thursday August 28	Friday August 29
AM	10.15am B405:213 Meet in foyer of School of Nursing and Midwifery 10.30-11.30 Welcome morning tea for Nursing Students at School of Nursing and Midwifery. Pam Roberts, Director International Programs	10.00-12.00 405.214 Introduction to Australian Health Care System Combined Lecture 9.00 - PT 9.35 - OT 10.10 - BIO 10.45 - NURS 11.30 Computer Access Session : Computer Lab Level3	10.00-12.00 405.214 Health Care Careers: Professional Structures in Australia	9.00-10.00 405.214 Critical Care Nursing	Free time Optional tour to the Caversham Wildlife Park
PM	13.00-15.00 405.214 Community Health Care Combined lecture 13.00- PT 13.35 - OT 14.10 - NURS 14.45 - BIO	13.00-15.00 405.214 Infection control Combined lecture 14.10 - BIO	13.00-15.00 405.214 Women's Health Combined lecture 13.00 - PT 13.35 - OT 14.45 - NURS	13.00-15.00 405.214 Geriatric Rehabilitation Combined Lecture 13.00 - PT 13.35 - OT 14.45 - NURS	

Biomedical Sciences (Week Two)

<i>Time</i>	<i>Monday August 25</i>	<i>Tuesday August 26</i>	<i>Wednesday August 27</i>	<i>Thursday August 28</i>	<i>Friday August 29</i>
<i>AM</i>	10.15am B- 405:213 Meet in foyer of School of Nursing and Midwifery 10.30-11.30 Welcome morning tea for Nursing Students at School of Nursing and Midwifery. Pam Roberts, Director International Programs	10.00-12.00 40 5.214 Introduction to Australian Health Care System Combined Lecture Medicare and structure of diagnostic testing	9.30-12.00 Lecture / Tutorial Computer Laboratory	9.30-12.30 Royal Perth Hospital Pathology Laboratories	Free time Optional tour to the Caversham Wildlife Park
<i>PM</i>	13.00-15.00 405.214 Community Health Care Point of Care Testing Combined lecture	13.00-15.00 405.214 Infection control Good Laboratory Practice Combined lecture	13.00-15.30 Australian Red Cross Blood Centre	13.00-15.30 Royal Perth Hospital Microbiology Dept	

Physiotherapy (Week Two)

<i>Time</i>	<i>Monday August 25</i>	<i>Tuesday August 26</i>	<i>Wednesday August 27</i>	<i>Thursday August 28</i>	<i>Friday August 29</i>
<i>AM</i>	10.15am B-405:213 Meet in foyer of School of Nursing and Midwifery 10.30-11.30 Welcome morning tea for Nursing Students at School of Nursing and Midwifery. Pam Roberts, Director International Programs	10.00-12.00 40 5.214 Introduction to Australian Health Care System Combined Lecture	9.00 Meet in the Foyer of B-408 to travel to Royal Perth Hospital, Shenton Park Campus Rehabilitation Hospital Christine Pickard Rebecca Hunt Return to Curtin 12pm	10.00 40 8:4502 Lecture/ Tutorial Physiotherapy Education in Australia Christine Pickard	Free time Optional tour to the Caversham Wildlife Park
<i>PM</i>	13.00-15.00 405.214 Community Health Care Combined lecture	13.00-15.00 405.214 Infection control Combined lecture	13.00-15.00 405.214 Women's Health Combined lecture	13.00-15.00 405.214 Geriatric Rehabilitation Combined Lecture	

Occupational Therapy (Week Two)

<i>Time</i>	<i>Monday August 25</i>	<i>Tuesday August 26</i>	<i>Wednesday August 27</i>	<i>Thursday August 28</i>	<i>Friday August 29</i>
<i>AM</i>	10.15am B- 405:213 Meet in foyer of School of Nursing and Midwifery 10.30-11.30 Welcome morning tea for Nursing Students at School of Nursing and Midwifery. Pam Roberts, Director International Programs	10.00-12.00 40 5.214 Introduction to Australian Health Care System Combined Lecture	10.00- 12.00 401: level2 Foyer Paediatrics Video/ discussion	10.00- 12.00 401: level2 Foyer Community Care Video/ discussion	Free time Optional tour to the Caversham Wildlife Park
<i>PM</i>	13.00-15.00 405.214 Community Health Care Combined lecture	13.00-15.00 405.214 Infection control Combined lecture	13.00-15.00 405.214 Women's Health Combined lecture	13.00-15.00 405.214 Geriatric Rehabilitation Combined Lecture	

Week Three (September 1 to September 5 2003)

Nursing and Midwifery (Week Three)

<i>Time</i>	<i>Monday September 1</i>	<i>Tuesday September 2</i>	<i>Wednesday September 3</i>	<i>Thursday September 4</i>	<i>Friday September 5</i>
<i>AM</i>	Bus pick up at 9:00am in front of B-405 Curtin Uni. Kent St Bentley. Visit Royal Flying Doctors Service Jandakot Airport Cont Graham Philp Bus pick up at 12.00pm Return to Curtin	Bus pick up at 9:00am in front of B-405 Curtin Uni. Kent St Bentley. Visit to Princess Margaret Children's Hospital Pam Nicol Meet at Reception Area Circus Corner 9.30am Bus pick up at 12:00pm	Bus pick up at 9:00am in front of B-405 Curtin Uni .KentSt Bentley. Visit to Murdoch St John of God Hospital Felicity & Mandy Meet at Main Reception Foyer area. Bus pick up at 12:00pm Return to Curtin Uni.	Visit Rowethorpe Hill View Tce Bentley Ros Price Meet at Nursing Admin (3 storey building) Students walk over themselves from main campus. Leaving at 9.00am. Guided by interpreter.	
<i>PM</i>		Visit Royal Perth Rehabilitation Centre Shenton Park Kate Miller & Susan Rayson at front entrance at ~9.30am Bus pick up at 3:00pm Return to Curtin		1.00 – 2.00pm 405 :214 Course evaluation	12:30 Lunch with SOLIE Curtin Club 1:30pm – 3:00pm Graduation Ceremony Course Evaluations

Biomedical Science (Week three)

<i>Time</i>	<i>Monday September 1</i>	<i>Tuesday September 2</i>	<i>Wednesday September 3</i>	<i>Thursday September 4</i>	<i>Friday September 5</i>
<i>AM</i>	10.00-12.30 Laboratory Heamatology Student projects (practice)	10.00-12.30 Laboratory Microbiology Student projects (practice)	8.00-10.00 Laboratory Microbiology Student projects (practice) 10.30-11.30 Discussion about results	11.30-12.00 Laboratory Heamatology Tutorial	12.30 Farewell Lunch Graduation Ceremony Course Evaluation SOLIE
<i>12.00- 13.00</i>	<i>Lunch Break</i>	<i>Lunch break</i>	<i>Lunch Break</i>	<i>Lunch Break</i>	
<i>PM</i>	2-4pm La boratory Heamatology Student projects (practice)	2-3pm Laboratory Cytogenetics	12.30-3:00pm PT, OT & BIOMED Visit Royal Flying Doctors Service Jandakot Airport Cont Graham Philp	2-4pm Laboratory Immunology Student projects (practice)	

Physiotherapy (Week three)

<i>Time</i>	<i>Monday September 1</i>	<i>Tuesday September 2</i>	<i>Wednesday September 3</i>	<i>Thursday September 4</i>	<i>Friday September 5</i>
<i>AM</i>	8-10am 210:102 Norm Dufty Lecture Theatre Neuroscience 351 lecture 10-12pm 40 1:002 Hollis Lecture Theatre PT Practice 352 Master Class	9am Meet in the Foyer of B-408 to walk to Rowethorpe Aged Care Facility Mark Wiklund	10-11am 404:109 Anatomy practical session John Owens	8.30am Meet in the Foyer of building 408 to travel to the Independent Living Centre, SCGH Trevor Goddard Combined OT & PT	12.30 Graduation Ceremony Farewell Lunch Course Evaluation
<i>12.00- 13.00</i>	<i>Lunch Break</i> 12.30pm Meet in the Foyer of B- 408 travel to Fremantle Hosoital	<i>Lunch Break</i>	<i>Lunch Break</i>	<i>Lunch Break</i> in Kings Park and then transport to <i>PMH</i>	
<i>PM</i>	1.30 pm Clinical visit Fremantle Hospital Stephanie Fullarton Bus pick up at 3pm return to Curtin	2-4pm Group A 408:2503 Neuroscience351 practical session Peter Gardner 2-4pm Group B 406:2506 Continenence & Women's Health practical session BK Tan	Bus pick up at 12:30pm from Curtin University Clinical visit Royal Flying Doctors Service Jandakot Airport Cont Graham Philp Bus pick up at 3pm Return to Curtin	1pm PMH, Paediatric Hospital Trish Sims Bus pick up at 3pm return to Curtin	

Occupational therapy (Week three)

Time	Monday September 1	Tuesday September 2	Wednesday September 3	Thursday September 4	Friday September 5
10.00-12.00	OT 2 nd Year Tutorial: ADL activities for spinal cord injured patients	9am Meet in the Foyer of building 408 to walk to Rowethorpe Aged Care Facility Mark Wiklund	OT 2 nd Year Tutorial: Therapy program using play activities	8.30am Meet in the Foyer of building 408 to travel to the Independent Living Centre, SCGH Trevor Goddard Combined OT & PT	12.30 Farewell Lunch Graduation Ceremony Course Evaluation
12.00-13.00	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break in Kings Park and then transport to PMH	Curtin university club Building 104
13.00-15.00	Cerebral Palsy Association of Western Australia	Free time	PT, OT & Biomed students only Bus pick up at 12:30pm from Curtin University Visit Royal Flying Doctors Service Jandakot Airport Cont Graham Philp Bus pick up at 3:00pm Return to Curtin	1pm PMH, Paediatric Hospital Trish Sims Bus pick up at 3pm return to Curtin	



Curtin 工科大学学生と一緒に実習

Curtin 工科大学教官による実技指導



11. 学生アンケート

1) 学生アンケート (研修プログラムについて)

質問 No.	項目 \ 程度	useful				not so useful
		1	2	3	4	5
1	Orientation day	13	7	1	0	3
2	English language classes	11	8	1	3	1
3	Excursion (Wildlife park etc.)	14	6	1	0	2
4	Excursion (Rottnest Island)	15	4	1	0	3
5	General health lectures (W.2)	3	13	6	2	0
6	Lectures/ labs/ tutorials	10	10	4	0	0
7	Excursions and fieldtrips	12	10	2	0	0
8	Overall I found the program	6	10	1	1	0
9	Overall I found the teacher to be	*	*	*	*	*
10	Overall I found the program do-	agree 6	11	4	0	diagree 1
11	What aspect of the program do-	*	*	*	*	*
12	What did you like best about-	*	*	*	*	*
13	Any other comments?	*	*	*	*	*

〔表中で、上段の太字数字(シャドウ枠)は評価の程度で1が useful、5が not so usefulを示す。各質問の項の数は回答した学生数を示す。回答しなかった項目もあるため、総数24名にならない項目もある。*は文章による回答〕

質問9から13についての評価を下記に示す(カッコ内は所属)

質問9 : わかりやすく話してくれる先生と、凄いスピードでベラベラしゃべっている先生との差が激しかった。(NS)

オーストラリアの先生はみんな親切だった。どんな小さな質問も答えてくれ、自分達が質問しようとしていたら、しばらく待って聞こうとしてくれてうれしかった。(BM)

有り難うございました。みんなとても親切で貴重な話をいっぱい聞けました。モチベーションが上がりました。(PT)

OTの予定をもっと早めに知りたかった。授業はていねいに教えてくれたのでよかった(OT)
当然だけど、人によって授業がまったくわからない時もあるって、いやだった(NS)

質問10 : オーストラリアの医療について知ることができてよかった(NS)

I would like to communicate with Australian nursing students much (NS)
違う国の教育の仕方なども感じられてよかった

質問11 : I think English language class should decrease and PT program, except for learning slug words. The number of teachers for combined PT, lecture Nursing, Biomedical) is too many. suitable number is two. (PT)

予定をもっと明確にしてもらいたい。もっとOTらしいことを専門的にやりたかった。(OT)
もっと学生と交流したかった。1ヵ月くらいの期間にしてほしい。(NS)

Curtinに来る前にどのような教科をやるかなど教えてほしい。また、突然のキャンセルはやめて欲しい。(BM)

質問 12: 現地の学生と混ざっての practice が一番良かったし、興味深かったです。そういうのをもっと増やして欲しかったです。(PT)

いろいろな OT の勉強ができたのがよかった。特に病院を訪ねることができたのがよかった。授業は実習がよかった。(OT)

オーストラリアの病院を見て、日本の病院のよい所と悪い所がみえた。(NS)

Curtin の学生と一緒に実習をやったこと。とても親切に教えてくれ、すれ違おうと挨拶とかしてくれて本当にうれしかった。

質問 13: Thank you so much!! I had a very good time !!(PT)

スケジュール調整はちゃんとして!(OT)

Thank you everyone. I love Australia. (NS)

同じ学科の学生と話せる機会があればよかった。日本の病院の様子を事前に調べて発表したりする。(NS)

高いお金を払っても来る価値があると思う。(BM)

2) 学生アンケート (参加にあたって)

Q.1 参加の動機

- ・日本以外のOTについてもっと知りたかった
- ・ホームステイに以前からあこがれていた
- ・英語と触れ合えるいいきっかけだと思った
- ・1年の時から興味があったが、専門をあまり勉強していなかったので、2年生になって参加した
- ・海外のBIOMEDの授業がどのようなか知りたかったから
- ・日本との違いを見てみたかったから
- ・外国の人の考え方や生活、外国の医療について知りたかったため
- ・働き始めると留学が難しいと思ったから
- ・学生のうちにいろんな体験をしたい
- ・海外に行ってみたかった
- ・ホームステイをしてみたかった
- ・留学というものを経験してみたかった
- ・海外の看護大学と日本の違いを感じたり、感慨の病院を見たりしたかったから
- ・留学したかったから
- ・入学当初、看護は第一志望ではなかったため、特別なことがしたかったから
- ・単位がもらえるし、いい機会だから
- ・親が「行くといいよ」と言ったから
- ・外国の大学に通ったり、外国の病院を見たいと思ったから
- ・単に旅行したいという気持ちもあった
- ・将来海外で働きたいと考えていたから
- ・海外に行くと日本との違いを見てみたかったから(学校、病院、生活など)
- ・海外の医療について興味があったため
- ・就職すると時間がなさそうだから
- ・海外の大学や病院でどのようなことをしているか知りたかったから
- ・海外でのPTの知名度(一般の人に対する)を知りたかったから
- ・海外の医療教育、現場を見たかったから
- ・昨年度から参加したいとは思っており、今回2年ということで参加した
- ・海外の病院、施設見学及び大学での学習の雰囲気を体験してみたかった
- ・異国の生活の中で、もまれて自信をつけたかったから

- ・貴重な体験ができると思ったから
- ・病院見学があるから
- ・日本も悪くないということを立証したかったから（日本の方がましではないか）
- ・せっかくだから行ってみようかなと思った
- ・海外の学習方法に興味があったから
- ・安全に海外旅行ができそうだから
- ・海外のリハビリ動向を見ておきたかった
- ・海外の授業に参加してみたかった

Q.2 研修を終えて

- ・非常に大きな意味があったと思う
- ・やはり日本のOTしか知らないのでは、よりよい医療は目指せないと思う
- ・実際に触れることで改めて広い視野で多くの知識を持つことが大切であると思った
- ・常に国境を越えた視野を持つOTでありたいと思った
- ・英語はとても大切なので、もっと勉強していきたい
- ・OT（専門知識）についてもまだまだ頑張りが必要を感じ、もっと勉強しなくてはと思った
- ・ホストファミリーとの交流はとてもよいもので、本当にここに来てよかったと思えた
- ・3週間経つと耳が慣れてきて何を言っているのかわかるようにはなったが、自分の言いたいことを上手く言えなかったため、英語を話すことの必要性を改めて感じた
- ・自分の世界が広がったような気がする
- ・海外で勉強するという手もあるんだなと思った
- ・オーストラリア人は自分の職業に対してプライドと自身を持っているのを感じて、自分も立派な検査技師になるために、またプロとしての自覚を持つために勉強をすることがすごく大切だと気付き、勉強する意識も変わり意欲も湧いた
- ・実習においてCurtinの合理的な方法を知ったが、その方法の精密性、正確性について調べたいと思う
- ・楽しみながら心を広く持ち、へこまずに頑張るってすばらしいと思った
- ・人のやさしさの素晴らしさを感じた
- ・とてもよい経験だった
- ・今後しっかり勉強しようと思った
- ・日本の医療について知らないということ、自分の積極性のなさを目の前にたたきつけられたようだった
- ・1年生であることを言い訳にすることの悔しさを知った
- ・海外で医療活動することは憧れであるけれど、日本のことをもっと知らなければだめだと思った
- ・国際交流としては最初にしては頑張った方だと思う
- ・これからも色々な所へ行ってみようと思うようになった
- ・日本だけで学ぶと、なかなか海外の体制や知識に目を向けることができないと思う。だからこういう機会に海外の文化や習慣も合わせて学ぶことで、自分自身にとってより広い視野で、そしてより様々な知識が得られる気がする
- ・英語の中で生活することも、普段では感じられないことも色々と思得できると思う
- ・ちょっとおかしいくらいの英語でも全く通じないわけではないこともわかり、積極的に自分から触れ合おうとするのも大切だと感じた
- ・日本の医療を知らないということ、知ればもっと今回学習することが多かったと思うし、オーストラリアの問題も見えたと思う（よい評価ばかりでなく）ので、日本のことをまず勉強しなければと思う
- ・Community Health 実現のためには、自分の職種だけでなく他職種を理解しなければいけないと思うので、まずは自分の職種、そして他職種のことにも関心を持ちながら実習をしたい
- ・日本にはNPの資格はありませんが、自分自身で考えられる看護師になりたい
- ・留学に興味を持った。日本で自分のstep upをはかり、日本でできないことを見つけたとき、留学をしたい
- ・出発前は不安だらけで人に色々助言してもらったり、パースでは英語だらけでどうしようと思ったりしたけど自分の力を信じて独力で生き延びた。何とか生きていけるということを身をもって証明したので前向きに生きていけると思う
- ・今回、初体験だらけで自分の視野が広がり、高まったと思う
- ・自分の勉強不足を改めて感じた
- ・全てにおいて未熟だった この気持ちを今後持ち続けたい
- ・今回の経験は他の国の医療について知るいい機会になったと思う。ただ、日本の医療のことももっと知っておけばよかったと感じた
- ・また自分自身を知ったり、日本を知ったりできたと思う
- ・オーストラリアの人は自分が学びたいと思ったら、与えられた課題とか授業だけでなく、一人一人が自主性を持って積極的に学ぶみたいなので、私も今後は自主性を持って学ばなければならないと感じた
- ・留学とか海外で働くとか難しそうだけどよりいっそう興味を持った

- ・医療の違う分野のことも少しだけど学習できてよかった
- ・私はあまり自分から積極的に質問することは無いけど、オーストラリアは質問して自分の理解を深めるといふか、授業への参加をアピールして、そのような態度はとても大切だと感じた
- ・質問ができないということは事前の自分の理解が足りないということであって、今回の自分はまさにこれだった
- ・学習態度を見直さなくてはいけないと感じた
- ・今まで日本の現状しか知らなかったのだから、オーストラリアの現状を学べたことは日本の短所・長所を見直すよい機会となった
- ・自分自身の考え方の幅も広がったし、日本だけ見ていてはだめだなとつくづく思った
- ・まだ英語のスキルが無さ過ぎるので、海外で働くことは考えられないが、自分自身のスキルアップや「井の中の蛙」にならないように海外の現状を知ることは私にとって必要なことと思う
- ・機会があれば、積極的に海外へも行って常に自分の価値観や感性を刺激したいと思う
- ・他国を見ることで、日本の現状を見つめ直すいい機会になった
- ・英語が話せるといいなと思うので、いずれ NOVA などに通おうかと考えている
- ・休学するにあたって、今後のことがすごく不安だったけれど、今回の経験を通して改めて PT になりたいという気持ちが出てきた
- ・まだどんな意味があったのかはわかりません。
- ・でも確かに僕にとって何かになったのには違いないと思います。そいつがいつか血肉になって僕をサポートしてくれる何かになるように頑張ります
- ・見識が広がり、卒後も常に各国の医療事情を継続的にキャッチアップしていく必要性を感じた
- ・オーストラリアの医療制度に触れて、日本の医療をどうしたらいいか考えるようになった
- ・セラピストになる上で、考えなければならないことが多くあることに気がついた
- ・もっと自覚を持たなくてはならないとも思った
- ・この旅は私に大きな影響とやる気を与えてくれたと思う
- ・PT という仕事の素晴らしさを改めて感じた
- ・考えばかりが先行していたことに経験が加えられ、より正確なものの考え方ができると思う
- ・これに参加したこと自体は、学習・進路への通過点として必要だと考えていたからであって、このこと自体によって方向が変わるというものではない
- ・自分のやりたいことが見えていなくてただただしていたけれど、1 人になったことで自分が見えてきた
- ・前に進めそう
- ・今回の経験で勉強への意欲が湧いた
- ・Master Course にも興味が湧いた
- ・今後の学習に対する予習になったと思う
- ・今までの海外旅行では本当に必要最低限なことしか話さなく、好き勝手にやっていたが、講義を聴くとすると話は別だとよく感じた
- ・またこちらの講義は話を聴くのではなく、話に参加することが必要で、それにはなおさら英語が必要だと感じた
- ・日本語でも自分の考えを上手く言えないと思うので、自分の考えを相手に伝えるという練習も必要だと思った
- ・当たり前のことだが、学校によって授業の雰囲気は違う、それを海外で体験できてよかった
- ・日本の今いる学校だけにいると視野が育たない。ただでさえとしをくっているため視野が狭くなっているのにさらに固執してしまう。違う角度から見る方法について考えることができた
- ・いろんな地域や場所へ行き、視野を広げ、いつか還元ができればいいなと思った

Q.3 全体と通しての要望や不満

ホームステイ

- ・食事、交流がよくなかった
- ・費用はできる限り安い方がいい

English Program

- ・英会話は非常に楽しかったが、1 週目のプログラムが 2・3 週目に反映されていないのが気になる
- ・医療に関する授業も程ほどあったほうが良いと思う
- ・仕方のないことですが、基本の基本しかしてない気がします
- ・スラングのみを短時間で一通り学習するだけでよいのでは。かぶってはいないが、似たような内容の繰り返しであったように思う
- ・実際に使わないし、英語力が 1 週間で上がったとは考えられない。無意味である
- ・英語の授業は役に立ちにくいと思う
- ・英語の授業よりも講義を増やして欲しいと思った

Week2

- ・ボキャブラリーが少なすぎて専門の知識にはついていけなかった
- ・自分の学科はまだ想像しやすくわかったが、その他は・・・
- ・自分が 1 年ということもあり、日本の看護について何一つ満足に答えられなかったし、それを理由にわかりませんというのも嫌だった。だからこの不満は自己学習しなかった自分に対して。
- ・自分の英語力不足でした
- ・私には少し難しすぎた
- ・英語に慣れたばかりだったので、もう少しゆっくり話して欲しかった
- ・後に覚えていないので、英語の勉強にはならないけど訳して欲しかった
- ・授業時間が短すぎる
- ・話すのが早すぎる人がいてわからない

Week3

- ・RPHは専門用語が多すぎてわからないことが何かわからないほどだった。資料が欲しかった
- ・事前にここがどういった施設なのかを知りたかった。病院なのか、保健センターみたいなものなのか
- ・短すぎる。少なすぎる
- ・講義のレジメが欲しい
- ・見学が多い



Royal Flying Doctors Service (RFDS) での
解説と飛行機の見学

Royal Flying Doctors Service での飛行機に搭乗



12. 学生レポートおよび感想文

a. Curtin University of Technology の研修

看護学専攻1年 小口伴美

3週間のオーストラリア「カーティン工科大学」への短期訪問は、私にとって、めったに触れることのできない海外の医療制度や、海外の大学の雰囲気に触れることができたとても貴重な体験だった。何もかもが、初めての経験で出会うものすべてが本当に驚きの連続だった。今までは体験したことのない、毎日が英語の生活、そして英語の授業。戸惑うことも多々あったが、今振り返ってみると、そう簡単には日本ではできない貴重な経験ができたのではないかとつくづく感じる。

そのなかでも、特に印象に残ったのが「Royal Flying Doctors Service」への訪問見学だった。広大なエリアの西オーストラリア州ならではのとてもスケールの大きな、そしてとても高度な役割を果たす医療サービスであると感じた。しかしそれと同時に本当に西オーストラリア州では、パース周辺などの都市部に医療機関が集中しているのだということを感じた。都市部から離れている人々にとっては、Flying Doctors サービスというものの重要性も大きいのだろうと思う。日本でも、緊急時の医療体制の整っていないところからの輸送にこういったようなシステムがある気がするが、僻地に住んでいる人がこういったサービスが気軽に受けられるような体制を整えれば、どんなにいいだろうかと思う。(西オーストラリア州ほどの必要性はないかもしれないが・・・) 実際に見学をしてみて、せまい小さな飛行機の機内で、さまざまな医療行為をしなければならないのは、私が想像していたよりもはるかに困難をきわめる部分が多いのではないかと感じた。そういった中で、誰もが平等な医療サービスが受けられるように体制を整えていくオーストラリアの医療制度からは、本当に学ぶべきことが多いのではないかと思う。特に長野県内では、医療体制が完全とはいえない僻地と呼ばれるようなところがほかに比べると多いので、そういった体制が本当は必要なのではないだろうかと感じた。

そしてもうひとつ3週間の授業を通じて感じたのが、看護師、理学療法士、作業療法士、検査技師のどの職業においても、それぞれのプライドというか、自分の持つ資格、職業に対する考え方が日本とは少し違うように感じた。日本は、まだどちらかという医師の指示を受けてそれぞれが役割を果たすといった感覚である気がするが、オーストラリアではどこかそれぞれが独立して、プロ意識が高いように感じた。もちろん医療の中ではいろいろな職業が連携をして取り組むのだろうが、そこにおけるそれぞれの立場がみな平等であるという感覚があるのだろうと思った。だからこそ、それぞれの役割が非常に大きくそして、個々が強い目的意識、プロ意識を持つようになるのだろうと感じた。

3週間を通じて、本当にいろいろなことを感じ、触れることができたと思う。日本では、あまり学ぶ機会がない、ほかの医療技術の職業に関してもいろいろと知ることができた。そして普段ではあまり接点のない違う専攻の人たちともたくさんふれあいていろいろな刺激を受けることもできた。今までまったくわからなかった理学療法士と作業療法士の違いも、この機会を通してわかった気がする。ただ、少し残念だったのが、私自身がまだ専門的なことや、看護に関することについて、あまりきちんとした知識を持っていなかった



めに、理解できなかったところも多々あった。これを機会にそういったところをしっかりと学習しようと思う。また可能であれば、海外の医療制度や大学の学習などに触れることのできるこういった貴重な体験ができたと思う。勉強だけでなく、ホームステイという形で、異文化の普段の日常生活を体験することができたのも、私にとってとても有意義なものだった。また、オーストラリア特有の動物にもいろいろ触れ合えて、おもしろかった。

b. Curtin University of Technology の研修を終えて

衛生技術学科2年 大橋 望 久保 桐子 立田 陽子

はじめに：幅広い見解を持ち、日本の中だけでなく世界に目を向けたいと思った。この考えから、実際の海外の医療生活に触れ経験をつみ、そこからこれからの学習や将来に活かすためにこの研修に参加した。

第1週： 語学(英語)学習

決まった応答の仕方、体の名称・動作、食べ物の名称、オーストラリア独特の食べ物・言葉、リアクションのとり方、泳ぐときの注意事項、国際結婚、地名、医療、文法など会話を中心に学んだ。始めはわからなくても、時間がたてば耳慣れをして聞き取れるようになった。なによりも先生が非常に明るく活発で、失敗を恐れるなという精神で教えていただけたのが良かったと思う。楽しく学べば力になるのだと改めて感じた。

第2週： 各学科(看護、OT、PT、MT)の概要を学ぶ。以下はMTの講義の概要を示す。

- A. 伝染病の防止に対する研究室の論争点
- B. オーストラリアにおける医療制度と臨床検査
- C. Point of Care について

(感想) 第2週目の授業は、総論的なことでした。看護、PT、OT、検査の先生方がそれぞれ教えてくださいました。聞きとろうと必死でしたが、専門用語がでてくるとわからない、というのが本音でした。自分の学科の講義が一番良かったとは思いました。

第3週： 専門分野を学ぶ

- ・血液学：Curtin Uni.の学生と交じって、スライドで白血球の形や色合いを見て正常かどうか、異常であればどのように異常か・そこからわかることは何かを学んだ。
Curtin Uni.の学生2～4人と信大1人を1つのグループとして実習を行った。
- ・微生物学：Curtin Uni.の学生と交じって、グラム染色と抗酸性染色(チル・ネールゼン法)の手技を学び、実際に染色した。
- ・免疫学：Curtin Uni.の学生2人と信大1人を1つのグループとして実習を行った。内容はオクタロニー法と免疫電気向流であった。

(感想) なんとと言っても英会話に苦労した。日常会話ならまだしも専門用語で新しい知識となると良く理解できなかった。しかし、Curtin Uni.の先生も学生も親切だったので質問しやすく、わかりやすかった。また、Curtin Uni.の学生は手際が良く、積極的であった。そのため、どの実習もスムーズに短時間で終わり、勉強したことがしっかり力になっていると感心した。Curtin Uni.のMTも三年で卒業するので今以上に努力しなければ私は追いつけないと感じた。インタビューしたどの医療従事者も自分の仕事に誇りを持っていたので、返答にはいつも感銘を受けた。私も将来このように答えられるよう今は身になる学習をしたい。3週間は短い、内容は濃いものであった。

とくに日本に留まっていたはわからない心理的なものを多く受け取った。3週間で得たことをこれからにどう活かすかでさらにこの研修の価値は高まるだろう。最後にこの研修を組んでいただいた信大の先生、Curtin Uni.の先生ありがとうございました！励ましてくれたクラスメートのメルありがとう！（大橋）

カーティン研修は3週間だったけれど、想像していたより英語の力が身についてびっくりしました。ヒアリングの力が鍛えられたみたいで、英語が耳になじんで帰ってきました。日本に帰ってきてもなるべく英語に触れていたいと思います。大学の授業では、実習中に音楽をかけることや実習後にグループでディスカッションをするところが良かったです。オーストラリアの職員にインタビューして感じたことは、自分の職業にプライドを持っているということでした。自分もそんな社会人になりたいと思いました。今回の研修において、本当に色々なことを学べて良かったと心から思いました。ものより思いでという言葉が本当にふさわしく自分にとって一生の思い出になりました。たくさん友達もできたし、最高の夏休みになりました。（久保）

学生さんが親切に教えてくれたおかげでなんとかわかることができた、というかんじでした。このとき英語が話せたらどんなにいいかと思いました。授業は日本より生徒がたくさん質問しているという印象を受けました。一番驚いたことは、微生物の実習中に音楽が流れていたことです。リラックス効果のためと、実習は楽しくやったほうがいいから、と向こうの先生が教えてくれました。また、実習室はかなり充実していたと思います。机に顕微鏡、バーナー、白金耳、流し、グラム染色液などが備え付けられていて、いちいち取りに行く必要がないので合理的だなあ、と思いました。（立田）



修了式で一人ずつ英語のスピーチ



修了証書を授与されて



ホストファミリーと乾杯！

c. Curtin 工科大学での海外単位認定プログラムに参加して

理学療法学科2年 小川喜英

. 総括

私が海外研修への参加を決めたのは、日本以外での理学療法に触れることをきっかけに、自分の理学療法に対する考え方を広げたいとの思いからであった。クライアントのニーズに合致したサービスを提供するには、既に体系化された治療、手技を習得することはもとより、そのニーズに対応可能と思われる最新の情報をも持ち合わせておく必要がある。その為には、海外にも目を向けた情報収集を行うこと共に、それらの妥当性を評価できる能力も身に付けて行かねばならない。自国の環境とは異なる地域の医療、理学療法を実際に自分の目で見て、新たに発見できたことが数多くあった本研修はその一助となるものであり、私にとって非常に有意義であった。このような研修の機会は、在学中になかなか得られるものではなく、せっかく与えられた機会があるならば、後悔しないようにと参加を決めた。理学療法を学ぶ早い段階で、

海外における理学療法の介入領域や教育プログラムの一端についても知ることができたのは、今後の学習の進め方や今後の自分の方向性を探る上でも大変参考になるものであったと感じている。

・各研修について

1．講義及び実習

4 学科共通の講義に加えて、理学療法の専門講義も受講することができた。専門講義は、ある疾患を想定し、一つの講義の中でその疾患に関する解剖学、生理学、病理学、外科的（内科的）治療法、理学療法（評価法、運動療法、効果判定など）を一連の流れで学習していく形態が取られていた。各々の内容は我々が日本で個別の科目として学んでいるものと同じであったが、それらを関連付け、横のつながりとしてまとめておく必要があることを改めて感じた。その他にも、実際に脳血管障害がある患者を対象に評価、運動療法、効果判定のデモンストレーションを行う講義もあり、常に臨床を意識し、シミュレーションしながらの学習が不可欠であると痛感させられた。

また、実習では解剖学以外に Curtin の学生と共にを行う介助練習もあり、与えられた課題に対してディスカッションしながら取り組む機会が得られた。この実習を通じて、ディスカッションすることは自分の理解不足の部分を明らかにすることができると共に、人に対して自分の考えを述べることで結果として自分の理解を深めることにつながるという認識が自分には不足しているように感じた。Curtin の学生の積極的な学習への取り組み姿勢は見習うべきものがあり、同じ理学療法士を目指すものとしての自覚を問いただされたような気がした。

2．病院、施設訪問

今回の研修プログラムの中で個人的に最も関心が高かったのは、病院、施設訪問である。運動療法などのサービスを提供する際に、その環境作りにはどのような配慮がなされているかに関心があったからである。今回訪問できた病院、施設の多くは、運動療法室などに人体の詳細な解剖図などを数多く掲示し、クライアント自身が自分の病態や今行われている治療がどの部位を対象としたものかを理解できるように配慮されていた。加えて各自のプログラムが図説で示されているなど、自発的に運動可能なように道筋も立てられていた。この他にも、クライアントの自発性を高めることを意図した工夫が数多くあり、今後の参考になるものであった。

また、入院を余儀なくされた場合にも、その居住空間を実際の家近づけることで精神的安定性が得られやすい環境作りがなされていた。日本の一部の病院でも導入されているが、それまでに使用していた家具や飾ってあった絵、写真などを病室に持ち込むといったことなどがその一例である。

この他にも、日本では数少ない ER や ICU における理学療法の現場や、オーストラリアでは盛んな水治療法の実際を見学できたことも私にとっては非常に貴重な体験であった。

・その他

現地でのオリエンテーションを兼ねた語学研修などについては割愛するが、いずれも有益なものであった。不慣れな土地での生活など不安な面も多くあるが、自分の背中を少し押すことで、今までに知り得なかった外の世界を垣間見ることができたのは、私にとって貴重な研修であったと感じている。



d. 海外研修に参加して

助産学専攻 西場 理恵

オーストラリアでの3週間は私にとって、とても有意義なものだった。ホームステイの生活で、食事や言語、一人一人の自主性が尊重され、また個人の自由時間を大切にすると共に、コミュニケーションも大切にす文化を身をもって実感することができた。

またオーストラリアに行く前まで心配していた“全て英語の生活”は、日が経つうちに徐々に耳が慣れていき、時々聞き逃すことはあるものの、何とか概要は聞き取ることができるようになった。話す方は文法は多少間違っているけども、最低限単語さえ合っていれば意思疎通が図れたし、単語が出てこなければボディランゲージで、片言の英語ながらも何とか生活することができ、英語への恐怖心はいつの間にかなくなっていた。しかし、日本語ではすぐに出てくる言葉が英語で表現できず、何度も自分のスキルのなさを痛感した。中・高校と勉強したはずが、自分の身になっていないことがよく分かったので、これを機会に、自分自身のスキルアップのためにも勉強し直したいと思っている。

今回のカリキュラムの中で特に興味深かったのは、病院・施設見学であった。助産専攻の2人だけを特別に連れて行って頂いた women's hospital は、public でありながら、その施設設備に驚いた。日本でまだ普及途上である LDR 室が整備されており、妊産婦さんだけでなく、家族の方もゆったりと過ごしていただけるような部屋であった。他にも褥婦さんの部屋（個室の場合）、沐浴槽が設置されていたり、本当の意味で母児同室が実現できる部屋になっていることにも驚いた。分娩体位も日本で広くとられている砕石位のみでなく、患者さんの希望によって立位や水中分娩や他にも様々な体位がとられていること、呼吸法も同様に患者さんの希望を尊重していく方針と伺い、妊産婦さん一人一人のバースプランが実現するような支援がなされていると感じた。日本の場合、バースプランを取り入れているといっても、妊産婦さん自身が様々な選択肢から選べるような情報提供は十分に行われていないし、また病院設備の関係などから、妊産婦さんの希望が十分反映されていないのが現状である。またオーストラリアでは、妊娠が分かった時点からの運動や呼吸法の指導は理学療法士の範疇であるということも、日本の現状からは想像できなかったことであった。日本の病院で今まで実習をしてきて疑問に思っていたことや、考えてもみなかったことなどが、オーストラリアで施設見学させて頂いたことで、アプローチの仕方や取り組み方などをイメージすることができた。

オーストラリアに行き現地の文化に触れられたことを始め、大学で学び施設見学をさせて頂いたことは私にとってとても貴重な体験となったと同時に、自分自身の視野を広げる良い機会となった。ただ日本で学ぶだけでなく、他国と比較することで、自国の長所や短所に気づくことができ、その点がとても興味深かった。

専攻科学生にとっては、少ない夏休みを利用しての参加となったが、勉強ばかりで



(パース市街をバックに Kings Park にて)

なく、週末は気分転換も十分に図れたし、とても内容の濃い3週間であった。学生のうちに、今回のような体験ができたことはとても価値のあることであったと思う。

e. Curtin 研修記

作業療法学科2年 瀬良 幸子

【1 週目】最初の1週間は直接医療的なことを学ぶのではなく英語の授業があった。クラス分けテストがあり、どういうわけか上のクラスに入り込んでしまった時には本当に涙が出そうになるくらいの不安があった。しかしどの授業もとてもユニークな先生と楽しい授業であったという間に過ぎていった。

【2 週目】ついに医療系らしい授業に突入した。オーストラリアの医療組織や地域医療やリハビリテーションについて、それぞれ看護、臨床検査技師、理学療法、作業療法の視点からそれぞれの先生による講義があった。やはり医療英単語はなかなか聞き取れず、辞書が手放せなかった。前日には予習をし、夜には復習をするなどなんとか少しでも理解しようと努めた。授業で聞き取ることが大変で大半聞き流してしまっただけのように思う。しかし先生や友人の助けでなんとかおおまかな流れだけはつかむことができた。

また、作業療法専門の授業もあり、ビデオをみて先生と私ともう一人の作業療法学科の学生とディベートを行った。英語を聞き取ることが精一杯であったが、貴重な授業であった。

【3 週目】実際に大学の学生と授業を受けた。私たちの参加した授業でとても興味深かったのが C6 以下脊髄損傷の場合の更衣のケーススタディであった。使える機能と傷害された機能を考え、自分が患者になったつもりで衣服をきてみる。実際に自分が体験してみることで何が困難なのか身をもって感じる事ができた。この授業の際、傷害された機能などをすらすらと答え、積極的に質問する生徒たちを見て、もっと勉強しなくてはならないと思った。また小児病院や老人施設などの見学などもあった。実際に作業療法を行っている場面をあまり見学できなかったのは残念であったが、現場の空気に触れることができたのは良かったと思う。

やはり語学という壁を乗り越えるのは大変であったが、それでも授業は興味深いものが多かった。リハビリテーションなどを日本よりも進んだ視点から学ぶことでいろいろ考えさせられた。またもっと積極的に勉強していかなくてはならないな、ということも感じた。このことを忘れずに日本でも勉学に励めたらいい。...のですね。

ホストファミリー

私のホストファミリーはホストマザーのデフニと今年の4月から留学しているという日本人のアイであった。デフニはとても元気なおばあちゃんだった。最初はデフニの英語が聞き取れず、言いたいことも伝えられず困惑したこともあった。デフニが活動的でなかなか家にいないためあまりコミュニケーションもとれず部屋で一人腹筋をしていたこともあった。3日たつ頃にはデフニと打ち解け始め1週間たつ頃にはデフニが大好きになっていた。寒い夜に暖かいぬいぐるみを貸してくれたり、おいしいと言ったキッシュが毎朝出てきたこともあった。ご飯の後など徐々にデフニと話す機会が増え、後半には医療のことや宗教のことなどまで話したりするようになった。デフニは本当に私のことを娘のように大切にしてくれた。私にとってもデフニは第二の母のようであった。

年齢が近い的缘故かアイともすぐに仲良くなった。通訳をしてくれたり、分からないことをアドバイスし

てくれるアイの存在は大きかった。学校帰りには歩いて30分近くかけてショッピングにでかけたり、毎晩遅くまでいろんな話をしたり、夜中に二人でこっそりワインを飲んだりもした。数え上げればきりがな
いほどデフニとアイとの思い出はある。この家にホームステイできたことはラッキーであった。またい
つか絶対パースの第2の家に帰ってやろうと思う。駆け足で3週間のホームステイを終えて、ホストマ
ザーと涙のお別れをして日本に帰ってきた。また以前とかわらない生活に戻り、パースでの生活が幻の
ような感じになってきている。パースで学んだことや感じたことは本当に貴重な体験であった。興味があ
るのならとあえず行ってみることをお勧めする。とにかく行ってよかった。



Curtin 工科大学および信大教官と。



2003.09.05. Curtin 工科大学キャンパスにて修了式を終えて

【編集後記】

本プログラムの実施にあたり、参加全員が大きな怪我や病気に見舞われることなく、また盗難や事故等のトラブルに巻き込まれることなく、有意義に Curtin 工科大学での研修生活を送ることが出来ました。学生は学習意欲、学習満足度、ホームステイなどの満足度などにおいても良好な反応を示し、日常の英会話、専門分野における現地教官や指導者へのインタビュー、現地学生とのコミュニケーションなどに積極的に参加していたのが印象的でした。

また、Curtin 工科大学の教官も日本の医療システムや本学の教育や研究に大きな興味を示しており、今後、両大学が共同で教育や研究に取り組み情報交換し、人材を育成できるような環境を整えて行く必要性を感じました。

最後に本プログラムを支えて下さった多くの方々に御礼を申し上げます。また、準備、実施、会計処理、報告書作成等に多大な協力をいただきました事務官の皆様に感謝いたします。
(文責：日高宏哉)



.....

「信州大学-Curtin University of Technology 大学間学術交流協定に 基づく平成 15 年度夏期海外単位認定プログラム 実施報告書」

2003 年 12 月 1 日

発行責任者：成沢和子

編集：平成 15 年度夏期留学・単位取得プログラム担当チーム

発行：信州大学医療技術短期大学部 / 信州大学医学部保健学科